くらしの危険

Number 293

湯たんぽの事故

湯たんぽは、寒い季節に暖を採るために古くから用いられています。容器にお湯を入れるだけなので、エコロジーということで人気です。最近は、電子レンジで温めるタイプや、IH ヒーターでも直接加熱できる湯たんぽも販売されています。その一方で、扱い方を間違えたことにより事故も起きています。使い方に注意して暖かい冬を過ごしましょう。

湯たんぽの事故の傾向

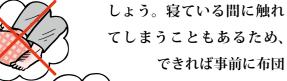
危害情報システムには、2004 年度から 2009 年度の 5 年間に湯たんぽに関する事故が 218 件寄せられており、その件数は年々増加しています。就寝中などに低温やけどを負った事例が最も多い一方、電子レンジで加熱するタイプでの破裂事故や、コンロや IH ヒーターにかけているときに起きた事故も寄せられています。

PDF 版

事故を防ぐために

やけど・低温やけど

湯たんぽに直接足を触れない

湯たんぽに直接足を触れないよう注意しましょう。寝ている間に触れてしまうこともあるため、できれば事前に布団を温め、就寝時は布団から出した方がよいでしょう。

やけどをしたら医師に診てもらう

低温やけどの場合、見た目はたいしたことはなさそうに見えても皮膚の深い部位が損傷していることがあります。やけどや皮膚の変色、痛み等に気がついたら直ぐに医師に診てもらいましょう。

電子レンジで加熱するタイプ

過剰加熱するようなオート加熱などは使用してはいけない

電子レンジのオート加熱機能を使うと加熱時間が長くなり、高温の内容物が外へ漏れ出たり、破裂したりして大きな事故になる危険性があります。本体表示や取扱説明書の加熱時間、出力を厳守しましょう。

IH ヒーター等に直接のせて加熱できるタイプ

湯たんぽの口金を外さずに直接加熱してはいけない

間違って口金を外さずに直接加熱すると、内圧が異状に高くなり危険な状況になります。なるべく直接加熱は控え、やかんなどでお湯を沸かして、湯たんぽに入れた方がよいでしょう。

直接加熱する際には、必ず口金を外して加熱すること。万が一、口金をしたまま加熱してしまった場合には、途中で口金を外さず火を止め十分冷ましてから口金を外しましょう。

●本内容は、独立行政法人国民生活センターホームページ内の「くらしの危険」コーナーにてダウンロードできます。
http://www.kokusen.go.jp/kiken/index.html

●本内容の一部について、詳細は、独立行政法人国民生活センターホームページに掲載しています。
http://www.kokusen.go.jp/

〒108-8602 東京都港区高輪 3-13-22 TEL.03(3443)1208 ● 2010 年 1 月発行（2 月更新）

デザイン＝花村デザイン事務所／イラスト＝ヒラヤマ ミワ

PDF 版

こんな事故が起きています

低温やけど

ケース1 左足に低温やけどを負った。たいしたことはないと思いしばらく放置していたら、突然足が動かなくなった。
重度のやけどと言われ皮膚移植が必要になった。
（不明 女性）

付属物でのやけど

ケース2 湯たんぽ袋は可愛いキャラクターのデザインで安全に見えたが、ファスナー部が露出していたため足をやけどした。
（50 歳代 女性）

電子レンジで加熱するタイプの主な事故事例

ケース3 いつもは決められた時間で加熱していたが、たまたま電子レンジの「あたためオート」モードで加熱したら、破裂して中のジェルで顔面にやけどを負った。
（20 歳代 女性）

ケース4 電子レンジで温める湯たんぽ。
2、3 回目の使用で表示どおりに加熱し、レンジから取出す際に破裂して手に 2 度のやけどをした。
（50 歳代 女性）

IH ヒーター等に直接のせて加熱できるタイプ

ケース5 湯たんぽのキャップ（口金）を取らずに IH ヒーターで加熱したら破裂した。
口金を取って沸かす旨のシールは張ってある。
シールが剥がれやすく、剥れると他に注意表示がないので分からなくなってしまう。
（30 歳代 女性）

新しいタイプの湯たんぽは加熱方法に注意

国民生活センターでは、「電子レンジや IH ヒーター等で加熱する湯たんぽの安全性（公表：平成 21 年 11 月 4 日)」をテストしました。その結果、以下のことがわかりました。

http://www.kokusen.go.jp/test/data/s_test/n-20091104_1.html

電子レンジで加熱するタイプは加熱時間に注意

湯たんぽの表示どおりの加熱時間で加熱した場合は湯たんぽの破裂や内容物の流出はありませんでしたが、電子レンジのオート加熱機能＊を使うと、加熱時間が長くなり、徐々に内容物が漏れ出すものがありました。

このとき、漏れ出た内容物の温度は 100℃前後となっており、触れるとやけどを負う危険があります。

加熱に関する全般的な注意表示は本体及び外箱にありましたが、オート加熱を禁ずる旨の絵表示は湯たんぽ本体にあるものはありませんでした。

＊電子レンジのオート加熱機能とは、電子レンジ固有のセンサーで食品の温度を調べ、適切な時間で自動的に加熱する運転モードのこと。

IH ヒーター等に直接のせて加熱できるタイプは必ず口金を外す

水を入れた湯たんぽを、口金をしたまま IH ヒーターで加熱し続けるテストでは約 15 分後に、湯たんぽが破裂しました。また、別のテストでは加熱を始めてから約 7 分 30 秒後には口金と本体のすき間から水漏れが始まり、その 2 分 30 秒後に口金を外すと、60cm 以上の高さまで勢いよく蒸気と熱湯が噴出し危険な状態になりました。

湯たんぽの包装材には口金をしたまま直接加熱しない旨の注意表示がありましたが、本体に表示されているものはなく、あっても容易に剥がれてしまうものでした。